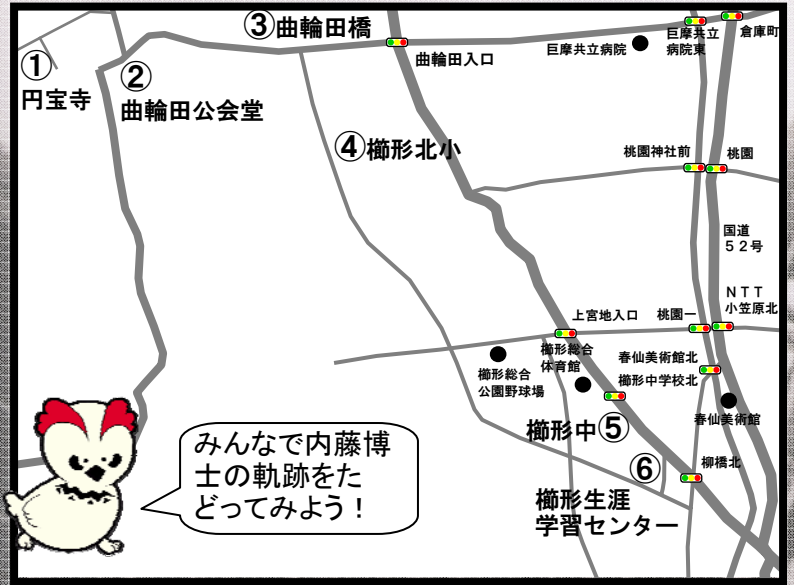


内藤多仲博士の足跡を歩く

①円宝寺



②曲輪田公会堂



みんなで内藤博士の軌跡をたどってみよう！

③曲輪田橋



④櫛形北小学校



⑥櫛形生涯学習センター



⑤櫛形中学校



内藤多仲（1886年 - 1970年）

南アルプス市（旧櫛形町）出身。耐震構造を研究し、東京タワーなど多くの塔の設計を手がけたことから、塔博士と呼ばれている。

市内に残る内藤多仲博士の軌跡（解説）

① 円宝寺

昭和37（1962）年、博士が自らの喜寿（77歳）の節目に菩提寺である円報寺に建立した本堂（上）。この時、若くして亡くなった母への思いを込めた慈母観音立像（右下）と、亡くなった妹の供養のためにもとめた日蓮上人坐像（左下）も寄贈した。

② 曲輪田公会堂

昭和8（1933）年、博士の生家の目の前にある曲輪田公会堂が完成した時、地元の人々に頼まれて書いた直筆の扁額。

③ 曲輪田橋

昭和33（1958）年、台風で流された木橋に替わり鉄筋入りの永久橋を掛けるにあたり、博士から受けた多大な恩恵を称え建立された碑。博士はこの他にも多大な貢献をし、地元の人々から感謝されていた。

④ 櫛形北小学校

博士の母校・榊小学校と統合してできた学校。博士はここを母校と見なし、多大な貢献をした。このことから昭和63（1988）年、創立30周年記念事業で「積み重ね つみ重ねても またつみかさね」の碑が建立された。この言葉は博士の生涯の生活信条であると同時に、人生行路そのものであった。

⑤ 櫛形中学校

博士の出身地にある学校。昭和32（1957）年、博士の設計により完成した。この時書かれたのが「高登彼岸」の額（右上）。「高い理想の境地をめざして、その目的地に登りつくよう懸命の努力を惜しむな」という意味。この他に昭和27（1952）年に書かれた「終始一貫」の額（左上）もある。

昭和39（1964）年には、郷土の偉人である内藤博士の徳と教えを末永く伝えようと博士の銅像（右下）が建立された。この時「道雖近不行不届 事雖小不為不成（道近しといえども行かざれば届かず 事小なりといえども為さざれば成らず）」の色紙（左下）が書かれた。

⑥ 櫛形生涯学習センター

平成11（2001）年、建てられた施設。内藤博士が当地（旧櫛形町）の出身であることから、東京タワーのモニュメントが設置された。このタワーは75分の1のスケールで高さは4m44cm。細部にわたり本物そっくりに建造された。